

## 旧金子元三郎商店

金子元三郎商店は、以前の店舗の焼失後、1895年ごろに建てられました。頑丈な石でできた構造や防火性能を有していることから、地元の商人や貿易商が自身の商品を守ることに重きを置いていたことが分かります。金子元三郎（1869年-1952年）は卓越した貿易商であり、水産物の受託販売を行い、その後、海運業、農牧場の経営、それ以外の分野にも商いの手を広げました。金子元三郎は、1891年に初代小樽区長に選出され、その後、国政にも進出しました。

堺町通りには、建物の正面に「うだつ」（防火壁）がある建物が5軒ありますが、金子元三郎商店はそのうちの1つです。上部が瓦で覆われているこの石の壁は、建物が密集して建てられている町で火災が起きた時に隣まで燃え広がらないよう造られたものです。建物の2階部分は、商品の保管に使用されており、窓には耐火性のある漆喰塗りの鎧戸が取り付けられ、火災から守る役割をしていました。この建物は、明治時代（1868年-1912年）に小樽にあった店舗の典型です。現在、この建物はアクセサリショップとして使用されています。